

ての藩政時代のきかいいし界石が残っている。大きな石の表面に安達と双葉の国境を示す線が刻み込まれている。同じような界石は、社の南側のヤマツツジの茂みの中にも残っている。

鳥居を出ると、路はまず左右に大きく分かれる。左が順路であるが、右を行くと急坂の先で大きな花崗岩の露頭が路をふさいでいる。しかし、近づいてみると、この露頭の下に小さな隙間があり、この穴をくぐって先に出ることができる。ここは、胎内くぐりと呼ばれ、



茂原の日山神社



イヌシデ林

通り抜けると身についていた悪病神が払われるといわれている。鳥居の先で分かれた二つの路は、この先で合流する。

このあたりは、ブナ、シナノキ、ヤマモミジなどの美しい樹林が広がっている。林床には丈低くチマキザサが密生している。この林を出た所に御神水がある。茂原の三匹獅子の一行はここで身を浄めて神域に入るのである。

御神水を過ぎてからは、路は広い尾根沿いにゆるやかに下りて行く。このあたりは、昭和の初期までは馬の放牧地となっていたが、